

令和4年6月29日(水)

- 1 テーマ 「地域にかがやき発信（貢献）する清水特別支援学校を創ろう」
- 2 参加者 1班：松永委員、佐野委員、小学部主事、地域連携課長、事務長  
2班：望月委員、中村委員、中学部主事、進路課長、副校長  
3班：大島委員、井上委員、須田委員、高等部主事、教務課長、教頭

### 3 話し合い内容

## 1班

#### 小学部主事

##### 小学部の地域への貢献について

- ・ラジオ体操や盆踊りを教えてもらう機会…教えてもらうだけでなく、お礼が言える。気持ちの通い合い。
- ・近所にあるいくつかの公園の定期的な利用…地域の方との挨拶。並んで歩く、手をつないで歩く等の良い姿や交通ルールを守っている姿を見てもらう。
- ・七夕まつり…授業の成果を見てもらう。祭りを盛り上げる。
- ・ニチイさんやセントケアさんとの交流…喜んでもらったり、楽しんでもらったりする。
- ・5, 6年の委員会活動…地域のごみ拾いにも活動を広げている。

#### 佐野委員

- ・清水特支の存在が地域の方にとって、本音はどうであるのか。  
→特別支援が必要な子どもたちがどのように認識されているのか  
差別や区別は依然としてある 健常の方と一緒に思われているのか  
静岡県は「共育」を掲げている 共に育つとは、健常者と対等に考えるということのはずだが…現実はそうではないのでは

#### 小学部主事

小学校との交流、居住地校交流で同年代の子どもたちと交流をしている。  
多くの児童が交流をしている現状はある。

#### 佐野委員

交流をしても、学校を一步出てしまうと、放課後に一緒に遊んでいる等の姿はない(エピソード)清水銀座の清掃(ガム取り)を一生懸命やっている姿を見た近くの店主が、あまりの頑張りに感銘を受け「何かをしてあげたい」と申し出てくれた、ということがあった。(障害があるから、ということではなく、活動の姿に対する正当な評価を得たという意味)

子どもたちのことを知ってもらうことがとても大事。

交流をする市立の小中学校の事前指導はどうなっているのだろうか。小中学校側の意識改革も必要である。

彼らのいいところを見てもらう、姿を見てもらう、知ってもらうために広げる  
→ここに課題がある

松永委員

(ここまでの話を受けて)差別的な思いは正直あったと思う。しかし、本日、校内参観をする中で、子どもたちがその子なりの頑張り方で学んでいる姿があり、以前の自分(差別的な思い)が恥ずかしくなった。

地域貢献について…自治会の活動(盆踊りや清掃活動など)は土日が多いため、自治会の行事で子どもたちと触れ合う機会が少ないのが現実。

11/2,3で自治会の文化展(いろいろな人の作品を展示する会)を行う。学校の作品を飾ったり、学校を説明する展示したりしてもらえると良いと思う。

佐野委員

知らないこと(特支について)を知ってもらえたことが嬉しい。

知ってもらう、ということがどれほど大事なことであるか。

「子どもたちの財産は、自分自身を知っている人を増やすこと」

学習発表会の場で、どんどん地域に発信できるとよい。

高等部の子どもたちが、どんなことをできるのかを知ってもらえれば、それを見た人が、例えば就職先を紹介してくれる、ということにつながっていく

(校内参観より)「しみずとくし」→学校と分かるように表示すると良い。(一般の人は、特別支援学校という名前すらわからない人がいる)…校名の表示を付ける

学校は福祉サービスにも関わっていく必要がある。教育と福祉と家庭の三角形は、子どもたちの生涯にわたって関わっていくこと。福祉のことを学校の教員が知っていることが大事。(会議に参加した職員だけが知っているのではなく、学校全体で)教師が、福祉や地域とどう関わっていくか、一人一人の思いではなく、学校の総意としてかかわっていくことが大事。

## 2班

### 【防災】

- ・ 地域の方が抱えるテーマの一つであり、日中は地域の男性が仕事で不在のことが多い。有事の際に、生徒ができることや校内の設備などを発信するとよい。
- ・ 秋葉山公園は市の防災公園となっているため、立地の利点を生かすべきである。

### 【お茶プロジェクト】

- ・ 清水の特色でもあり、PTAの活動から生徒への活動へと役割を変えていけるとよい。

### 【作業学習】

- ・ 中学部が作業に力を入れると、高等部にも刺激になる。
- ・ 中学部では、あえて機械を使用せず手作業で取り組むとよい。高等部になってから機械を使用。
- ・ 作業製品を地域の方にモニタリングを行い、値段などを調査するとよい。
- ・ 野菜作りについては、地域の方々がノウハウを持っているので学べるとよい。お年寄りの方も生きがいになる。
- ・ 地域の祭りに作業製品を販売するとよい。

### 【センター的機能】

- ・ 中学校の特別支援学級を訪問し、生徒の様子を把握するとともに、清水特支の概要や卒業後の進路について説明をする機会を積極的に実施する。
- ・ 中学校の段階から、清水特支と一緒に支援、指導をしていく。
- ・ ホームページにて、学校ができることを発信していく。例えば、進路の情報や教育相談など。そのためには、まずは地域の学校と顔をつなぐこと。
- ・ 地域はインクルーシブであり、学校でも異年齢の方などいろいろな人とかかわる機会を作るべきである。

### 【その他】

- ・ キャンパスでは、廊下の壁面を利用して作品展を行っている。そういう場に生徒の作品を展示することもできる。

## 3 班

### 【地域に貢献できることはなにか】

○学校東側、フェンスの掲示物について

高等部主事：もっと広げることができないか

(現在、ゲストティーチャーや美術作品を入れているが)

大島委員：見てくれている人はどれだけいるか

近くに行かないと見えない。HPに発信を

思い切って校舎に校名を付けて目立たせるのはどうか

井上委員：秋葉山公園に200人くらい集まり遊んでいる。時々掲示板を除く人もいる。

大島委員：抜け道として車の通りも多く、安全性に欠ける。

バス停のように、窪みがあって、屋根やベンチがあると休憩しながらゆっくり見てくれるのではないか

井上委員：正門の前が良いのではないか ※設置場所の工夫が必要

大島委員：あまり分散しないで集中できると良い。

【学校と地域と一緒にやれることは】

高等部主事：高等部は作業販売として西門裏の地域の方々をターゲットにして行う。

秋葉山清掃も行い、少しずつ交流ができてきている。

まずは、地域の人に知ってもらおう。コロナの影響もあり、呼び込みが難しい。

大島委員：今年から日軽金も地域貢献活動をしている。会社は雇用をしているので、地域貢献をしてなんぼ。外に出て感謝されることが喜び。

☆学校は卒業したら終わり。卒業とともにスキル、ノウハウを社会に移植しないと繋がらない。周りは障害についての理解はまだ薄い。社会に理解してもらうことが必要

須田委員：来てもらうだけでなく、行くことも大切

清水市民活動センターと繋がると良い(祭りもやっている)

井上委員：去年、印刷班に依頼した。生徒から sample ができたと電話が来て、出向くと、応対も良く、素晴らしいと感じた。こちらが思っている以上に生徒は成長している。

高等部主事：なんでも教師がやるのではなく、生徒が行うことで知り合えると思っている。

○販売目的で来ていただく、ためにアピールをどうすれば良いか？

高等部主事：チラシ配り？

大島委員：ツールそのものに魅力があるかどうか？チラシもよいが、対面の方がコミュニケーショントレーニングにもつながる。

コンテンツの魅力は？ 他者がどう思っているのか仮説も立てておくと良い。

須田委員：教師も一緒に回る。

大島委員：一発ものでなく、何回もやって慣れてもらうことが大事

高等部主事：水曜日みたいになりたい

大島委員：一度来た人が、他者を連れて来る。(良い意味でのねずみ算方式)

井上委員：学校便りにあるような取り組みを、飯田地区、社協、広報誌の記事に載せることも可能。2～3割の人は見てくれる。

須田委員：SNS的なことをやるのはどうか

大島委員：インスタから行うのは、一般的な販促の仕方

須田委員：物とそれに伴うストーリーがあると映える

高等部主事：清水東との交流、どうすれば映えるか

大島委員：いいね！がどれだけとれるか

井上委員：交流館に作品を展示するスペースが多くあるのでどうぞ。